

東アジアの平和と日本の役割

入場無料
予約不要

—取り残された冷戦構造と憲法9条の役割—

日時：2018年6月9日(土) 開場 午後1時 開始 午後1時30分
終了 午後4時30分(予定)

明治維新から73年後に太平洋戦争開戦、そして今年、敗戦から73年を迎えました。そんな今、政府は改憲を訴え、憲法9条を変えようとしています。戦後憲法9条のもと平和を守り続けてきたにもかかわらず、これを必要と緊急性が本当にあるのか、あらためて東アジアの歴史を振り返りつつ検証する必要があります。東アジアの戦前・戦後史に通じた山田朗・明治大学教授と、憲法学者である清末愛砂・室蘭工業大学大学院准教授のお2人に講演いただき、さらにパネルディスカッションで理解を深めたいと思います。

第1部 コラボ講演「東アジアの平和と日本の役割」

1. 『歴史と軍事から見た日本国憲法9条の意義』

山田 朗氏(明治大学教授)

イラク派遣差止め訴訟の札幌地裁・名古屋高裁・岡山地裁原告側証人

専門 / 日本近現代史・日本軍事史・天皇制論

主著書 / 『日本は過去とどう向き合ってきたか』(高文研、2013年) 『日本の戦争：歴史認識と戦争責任』(新日本出版社、2017年)
『兵士たちの戦場—体験と記憶の歴史化』(岩波書店、2015年)



2. 『憲法9条の意義はどこにあるのか—非暴力平和主義と東アジアの平和の視点から』

清末 愛砂氏(室蘭工業大学大学院准教授)

専門 / 憲法・家族法

主著書 / 『パレスチナ—非暴力で占領に立ち向かう(母と子で見る)』(単著、草の根出版会、2006年)
『安保法制を語る!自衛隊員・NGOからの発言』(編著、現代人文社、2016年)
『北海道で生きるということ—過去・現在・未来』(編著、法律文化社、2016年)
『右派はなぜ家族に介入したがるのか：憲法24条と9条』(近刊書、共著、大月書店、2018年)



第2部 パネルディスカッション・質疑応答 場所 札幌エルプラザ 3階大ホール

パネラー / 山田 朗(歴史学者・明治大学教授)
清末愛砂(憲法学者・室蘭工業大学大学院准教授)
林 炳澤(自由学校遊 共同代表) ほか

コーディネーター / 今橋 直(憲法委員会事務局長)

主催 札幌弁護士会
共催 日本弁護士連合会 北海道弁護士会連合会
お問い合わせ 札幌弁護士会 TEL 011-281-2428

